

皆さん、こんにちは。校長の佐久間です。早いもので、もう令和6年度の前期が終了です。皆さんは、本校で、充実した半年間を過ごすことができたでしょうか。

さて、本日も、デザインを学ぶ皆さんに日本人の美意識について述べたいと思います。

取り上げたい題材は、日本の土器についてです。我が国で、最も古い土器は何でしょうか。縄文土器です。最古のものは、約1万6千年前であり、世界最古の土器ともいわれています。縄文土器は「紐（ひも）作り」という技法で形を作ります。その後、平らな場所に積み上げた土器を草木で焼き上げる「野焼き」を行います。全てのものではないが、縄目模様を施したものがあるため、縄文土器と呼ばれています。主にドングリなどの木の実に煮て灰汁をとるために、底部が尖っているものが多い。そのため、火にかけて焦げ目のついた土器も多く発掘されています。縄文土器は、当初は美術的には評価されていませんでしたが、「太陽の塔」や「芸術は爆発だ」という言葉等で著名な岡本太郎は、現代美術の立場から縄文土器を高く評価しました。特に、燃え上がる炎を象ったような火焰型土器は、力強さが感じられ、評価が高く国宝とされているものもあります。

狩猟・採集中心の生活から、稲作が始まった紀元前3世紀ごろから、弥生土器が使用されるようになりました。弥生とは、最初にこのタイプの土器が発見された、東京都文京区弥生町（東京大学本郷キャンパス内）にちなみます。弥生土器の製法は、野焼きまでの工程は縄文土器と同じですが、さらに「覆（おお）い焼き」をします。野焼きを土でドーム状に覆うことで、窯（かま）のような役割を果たし、土器全体に熱を均一に伝えられるのです。覆い焼きにすることで、野焼きよりも高温で仕上げられます。また、一つ一つの土器にまんべんなく熱を伝えられることにより、弥生土器は縄文土器より丈夫で耐久性の高いため、薄手なものとなりました。縄文土器は、厚手で縄目模様など、装飾が過剰で、シンメトリー（対称的）でないものも多くありますが、逆に、弥生土器は薄手で、余計な装飾がなく、シンメトリーで実用的です。つまり、美術的には、縄文と弥生は極めて対照的であるといえます。

さて、皆さんは、縄文土器と弥生土器のどちらの方に美しさを感じるでしょうか。意見が分かれるところだと思います。これまで、私は皆さんに、不揃いやシンメトリーでないことが、日本の美であるという話をよくしてきました。そうすると、縄文土器の方が美しいと感じるべきなのではないでしょうか。そうでは、ありません。日本人の美意識には、シンメトリーであることや、実用的であるもの、無駄がなくシンプルであるものにも美を見出してきたのです。工業製品や建築物など、日常にある実用的なものにその傾向があるように思えます。また、時代によって、つまり流行によって、その傾向が変化しているともいえそうです。効率や機能が重視される現代では、縄文的な美よりも、弥生的な美の方が、支持されるのかもしれませんが。まさに「シンプル・イズ・ベスト」です。

結びとなりますが、皆さんが、令和6年度後期においても、充実した学校生活を過ごされること期待しています。現在、在籍している全員が、2年生への進級、専攻科の課程の修了を目指して、頑張りましょう。特に、専攻科の修了学年となる2年生は、卒業後のこともしっかり考えて、行動するようにしましょう。既に、就職が内定している2年生もいますが、それ以外の皆さんは、就職するか、大学等に編入するか、方向性を定めて、活動しましょう。わからない点や悩みは、先生方に相談するようにしましょう。

皆さんの活躍と飛躍に期待しています。以上で講話を終わりにします。